

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 6 号

発行日  
2023.6.30  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

○やはり、「沖繩」のことは、書いておかなければ!!

本日(25日)、沖繩は、梅雨明けとなった。今年は、随分前から予報はされていたので、特段の喜びはないが、一応は、一つの季節の節目ではあるので、そして、何より、同じ暑さでも、明るい、抜けるような青空の下でのそれと、どんよりとした曇り空の下でのそれとは、やはり雲泥の差があるので、この違いは大きいと言わざるを得ない!!

ところで、この沖繩の梅雨明けは、かの「慰霊の日」(23日)の頃だという記憶(感覚)があるが、こゝ多分に漏れず、今年もそうであったということになる!しかるに、この「慰霊の日」は、78年前の、あの悲惨な沖繩戦のことを、改めて思い出させる日であるが、正直言って、最近の私は、その日のイベント等については、心苦しいが、ほとんど関心がない(一応は、「県民」であるにも拘らず!)!!その理由については、ここでは、多くを語ることは避けるが(多分これからも)、滞在33年という歳月の中で、もろ手を挙げて、それに賛同、参画したくないという思いが、一方で、頭を擡げてきたということかもしれない!!来沖当初は、あれほど、こゝ沖繩で仕事をさせてもらうわけでもあるので、沖繩のこと、沖繩の人達のことを分からなければと思ひ、その理解・協力を努めてきた私であるが、今は、その努力を、ほとんどしていないということである!!

要は、今までの私は、こゝで生きている人達と同じ思いで生きていると思っていた、言わば、ふりだけの沖繩人?であったわけであるが、やはりそれは無理であり、まやかしてもあったということである!!そう思うと、何故か、ほっとしている自分がいる!!

○一つの様式でまとめることが難しい?我が経歴!!

ところで、この度、ひよんなことから(今は、具体的なことは言えない)、自らの経歴(功績?)を書き記す機会があった!学歴や職歴に関わる期間や日付等は、それなりに書けるのであるが(ただし、煩雑?)、その他の、学外での委員活動や講義・講演等のそれが、何とも覚束ないのである!

この歳になつては、そうした情報(記憶?)は不要であり、委嘱状等もすべて処分しているわけであるので、今更、その再生?は不可能なのであるが、それにしても、今回改めて思ったことは、自らの経歴の複雑さ、多様さ?である!だから、指定された書き込み様式では、私の経歴(功績?)は、到底書き記すことが出来ないというところである(喜ぶべきか?悲しむべきか?)!

ということ、現在、可能な限りのバックアップ作業を行つていくわけであるが、経歴が、何の功績となるのかは、私自身が決めることではないが、自分自身の経歴や功績?を、他者の尺度や記載様式で書き記すことに違和感はあるものの(癪でもある?)、最後くらいは?、それに沿つてまとめておくことも、それなりに意味はあるであろう!!そう思つての、作業という次第である!

ちなみに、自分が著した本や論文については、大半は所有しているが、記念すべき?二つの単著(単行本)が、何故か?無くなつてしまつていることが判明し、奥さんの協力で、アマゾンから入手していることは、別な意味で、複雑な過去となつてしまつている(これだけは、実に情けない話!)笑やはり、本質は、いい加減な私なのかもしれない!!

○我が気力喪失?に、優しき手助け!!

さて、これもまた、一種の旅の報告とはなるが、今回は、少し趣の異なつたものであった!と言うのも、最早一線を完全に退いている私が、何故か?研究者の一人として、岡山県内の学校現場に、研究視察(CS関係)の一員として行かせてもらったのである!何とも気恥ずかしい思いであつたが、実は、これには、ある二人?の人間の思惑が絡んでいたのである!

詳しいからくり?は分からないが、最近の私の書き物が、どこか弱気度、ある種の気力喪失?を感じさせるものであるという判断をした(私自身は、そういうことは意識していないのだが?)S君とY君が(二人とも、現在は大学教授であるので、このような表現は大変失礼かもしれないが、私の一方的な親近感の発露として、このように書かせてもらつたら、ちなみに、S君は、私の大学時代の教え子?でもある!)、今回の企みを思いついたようである!!

余計な話かもしれないが、この二人は、H大学大学院の先輩後輩の関係で、無二の親友であり、人間としても、研究者としても、良き理解者同士でもあるようである!!Y君とは、今回が2度目の出会いであるが、何ともユニークなキャラで、沖繩での最初の出会いで、私に、「○○ちゃん」と呼ばしめた御仁である!今回は、さらなる交流があり(ホテルも一纏、彼の個人的な魅力も、一層深く感じさせてもらった次第である!)

本日は、その学校現場への訪問(Y小学校とK小学校、両校ともCSの実施校)のことを、きちんと書かなければと思つての記事作成であつたが、どうもそうならないようであるので、それに関して、別途?書き記すことにして、ここでは、人間の出会いの妙(Dさん、Fさん、O君並びに両校の関係者のみなさん)、そして、多分悩みや苦労?の連続の中で、健気に、そして、多くの人々のために日々奮闘されている、私の言う「心ある人間」として頑張つておられる人達の姿を、新たな喜びとして見させて頂いたことを、ここでは記しておきたいと思う!

最後に、たまたま同県内にいる三女との出会いも実現し、今回の旅を、心優しく企画・提供してくれたS君には、感謝以上の何物でもないことを、改めて記しておきたい。

(井上)

『なぜ日本の学校から「いじめ」がなくならないのか？なかなか変わらないその構造とは？』  
ということ、ここからは、堂本の担当となるが、こ

こでは、今回もまた、件のネット記事から、有益な話題を拾ってみることにしたい。だが、今回は、少し複雑でもある(もうこういつた記事は辟易である)!!だから、その辺りの微妙なニュアンスを、いかに出せるかでもあるが、その記事は、冒頭(最初の部分だけで申し訳ないが)、「たった2つの『シンプルかつ納得の理由』という小見出しで、以下のように綴ってあった!

『日本の学校は、あらゆる生活(人が生きる)すべてを閉いこんで学校のものにしようとする。学校は水も漏らさぬ細かさで集団生活を押しつけて、人間という素材から『生徒らしい生徒』をつくりだそうとする。学校で集団生活をしていると、まるで群れたバツタが、別の色、体のかたちになって飛び回るように、生きている根本気分が変わる。何があたりまえであるかも変わる。逆に社会では名誉毀損、侮辱、暴行、傷害、脅迫、強要、軟禁監禁、軍隊のまねごととされるが、学校ではあたりまえに通用する。センセイや学校組織が行う場合、それらは教育である、指導であるとして正当化される。正当化するのがちょっと苦しい場合は、『教育熱心』のあまりの『いきすぎた指導』として責任からのがれることができる。生徒が加害者の場合、犯罪であっても『いじめ』という名前をつけて教育の問題にする。こうして若い市民が兵隊のように『生徒らしく』なり、学習支援サービスを提供する営業所が『学校らしい』特別の場所になる。市民の社会では自由なことが、学校では許されることが多い。社会であたりまえに許されないことが、学校ではあたりまえに許されるようになる。』  
言いたいことは分からないでもないが(同意するところも多々ある)、ただ、何故そうなってしまったのかを掘り下げられていない!!結局は、指揮のための指揮となっている!!そこが腹立たしくもあり、悔しくもある!!  
要は、最早、ただ指揮するだけでは、誰も救われない!学校関係者だけを責めても始まらない!!そうならないための方策は?そのためには、どこを、どうすればよいのか?そこを示せ!一方で、そう思うのでもある!

〈短歌に託して〜梅雨明けに想う、いくつかのこと〉

・梅雨明けと慰霊の日

そこで交わる 沖繩の魂 何を求めし?

・様式に 収まり切れぬ 我が来し方?

そんなものに 日付は無用?

・我が気力喪失?に、優しき手助け

まんまと嵌った 岡山の旅!

・心せよ 指揮はもういい!

いかにして その改善を 図るかである!

○「開花」と「崇神」に託された(隠された?)、古代

氏族の攻防!!

さて、先号では、件の「老松(神社)」「三階松(?)」が、「姫ノ木ノ紀氏」(の本流?)の「松野連氏」(「木の公のみ」)のものであり、そして、そこに、いわゆる欠史八代の最後とされる「開化天皇(第9代)」が関わっていることを示そうとしたが、結論としては、次の第10代が、新たな(真の?)「ハツクニシラスメラミコト」とされる「崇神天皇」であるわけであるので、そこにある関係(ある意味では断絶?)を、改めて精査する必要があるということを示そうとしているということである!!  
ということ、まずは、彼ら「開花」と「崇神」が、どのような系譜でつながっているのかをみたかったのであるが、少なくとも、それは、第8代の「孝元天皇」、そして、第7代の「孝靈天皇」までは遡る必要があると思つてのことであった(ただし、本当は、第5代の「孝昭天皇」までも?何故なら、彼は、いわゆる「和珥(鰐)族」の祖?ひ

よつとしたら「大幡主(大若子命)」「榎田神社の祭神として描かれている?」!いざれにしても、そこには、多くの古代氏族が関わっているということである(「記紀」による創作・改竄も、当然?あったとは思われるが?)!!

そこで、注目されるのが、先号で示したように、「開化天皇」は、かの「物部氏(穗積臣氏)」と関係があったこと、そしてそこに、大彦命・少彦男心命・倭迹迹(且百襲)姫命(同母兄弟)、さらには彦太忍信命・武埴安彦命(異母兄弟)等が絡んでいるということであった!

すなわち、孝靈天皇の子である、その父親孝元天皇は、母系で、大和とつながり、一方でまた、吉備との関係(異母兄弟)がある!!しかも、彼は、穂積臣氏の祖の薨色雄命の妹の薨色謎命を皇后として、大彦命・稚日本根子彦大日尊(後の開化天皇)らを得ている。また、伊香色謎命、埴安媛等を妃にし、前者との間には、葛城氏・蘇我氏の祖となる彦太忍信命、後者との間には、御間城天皇(崇神天皇)の代に反乱を起すことになる武埴安彦命(「大幡主(大若子命)」?)を得ているということである。

ちなみに、いわゆる「欠史8代」であるが、実は、そこには重大な秘密(実際の権力争いの構図?)が埋め込まれており、特に、最後の第8代「開化天皇」に関わっては、まさに、福岡県の高良山周辺(ある時期の筑紫倭国?)での権力争いの状況が伏されている?そして、それは、「姫ノ木ノ紀氏」(「松野連氏」/「木の公のみ」)と、そこから生まれた(離脱していった?)「崇神」勢力(物部氏?)の関係を示すものではないか!! (堂本)

### 〈編集後記〉

今回も、様々な記事、思いを書き記してみた!また、古代史では、これ以上の深みはないというところまで来た!そこで、今後のは、改めて、未知の世界となるが、これからも、楽しく突き進んでいきたい(読者の困惑も顧みずに?)!!

末尾に、沖繩は、やはり蒼い海、青い空でなければ(台風は厄介だが!)...「慰霊の日」はともかく、件の、私の沖繩への思いは、今後どのようになってゆくのか?それは、偏に、(「沖繩で今を生きる人達との、真摯な交わりにかかっている!! (井上ノ堂本)